

学校施設の耐震診断結果の公表について

平成23年3月末日現在の状況について、公表いたします。

1. 耐震診断の対象とする建物

昭和56年以前に建築された非木造の延べ床面積200㎡以上、又は2階以上の施設。

2. 耐震診断結果

学校名	棟	構造	建築年度	面積(㎡)	一次診断	診断結果(Is値)	二次診断	診断結果(Is値)	改修等
生馬小	校舎1-1 (管理特別棟)	RC	S55	1,162	H15	0.11	H20	0.58	H21改修済
	校舎1-2 (教室棟)	RC	S55	894	H15	0.43	H20	0.77	H21改修済
	体育館	RC	S55	678	H15	0.81	H20	0.86	H21改修済
朝来小	校舎19	RC	H18	2,914					対象外
	校舎20	RC	H18	2,160					対象外
	体育館	RC	H19	1,680					対象外
岩小	校舎	RC	H03	2,108					対象外
	体育館	RC	H17	797					対象外
岡小	校舎	RC	H05	1,836					対象外
	体育館	RC	H22	814					対象外
市小	校舎	RC	S63	2,166					対象外
	体育館	RC	H01	797					対象外
上富田中	校舎1(3階)	RC	S39	2,330	H15	0.32	H21	0.64	H23改修予定
	校舎2(2階)	RC	S40	1,433	H15	0.77	H21	0.79	補強必要なし
	校舎10(2階)	RC	S57	1,287					対象外
	体育館	RC	S41	780	H15	0.84	H21	0.30	H23改修予定
	武道場	S	H05	350					対象外

RCは、鉄筋コンクリート造、Sは、鉄骨その他造

Is値について

建物の強度、建物形状、経年劣化の要因から決まる建物の耐震性を表す指標で、この指標に応じた安全性の目安は次表のとおりです。

構造耐震指標	0.3未満	0.3以上0.6未満	0.6以上
構造体力上主要な部分の地震に対する安全性	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

なお、法律上の耐震改修の扱いについては、耐震改修促進法で定められており、Is値0.6以上であれば統計的に被害が少ないという結果が出ています。

しかし、学校の場合は公共施設としての重要性から、文部科学省がIs値0.7以上の建物を補強の必要がないものとしています。

1次(簡易)診断は、補強の要否の判定を行う精密診断(2次診断以上)を行うかどうか検討するためのもので、RC構造の目標値はIs値 0.9、S構造の目標値はIs値 0.7です。